

公園のデザイン

—彫刻家イサム・ノグチと札幌モエレ沼公園—

Design of Park

—Isamu Noguchi's sculpture works and Sapporo Moerenuma Park—

藤掛正邦*

Masakuni FUJIKAKE

0. はじめに

2012年5月4日～5月5日、文教大学大学院 情報学研究科の研究旅費で、彫刻家イサム・ノグチの「公園のデザイン」研究のため、北海道札幌の「モエレ沼公園」を撮影取材した。北海道札幌のモエレ沼公園構想は、1979年からゴミ処理場として利用した後、1990年から造園を行うユニークな事業である。1988年、当時の板垣札幌市長が彫刻家イサム・ノグチを招いて公園のデザインを依頼した。同年3月、彫刻家のイサム・ノグチが初めて札幌を訪問、5月に第1回プレゼン、11月に最終模型を披露した。残念なことに、1988年12月、イサム・ノグチはNY大学病院で永眠。1989年、イサム・ノグチの遺志を継ぎマスタープランに基づき造園作業を開始した。そして、2005年にグランドオープンを迎えた。公園面積は189ヘクタール、セントラルパークの半分、外周距離は3.7km。



写真1 札幌モエレ沼公園の全景（検索画像）

1. 公園のデザイン原点

ニューヨークにあるセントラルパークは、マンハッタンにある都市公園です。南北4km、東西0.8kmの広さがある。周囲の摩天楼で働き暮らすマンハッタンの人々のオアシスとなっており、映画やテレビの舞台としても度々登場するため、世界的にも知られるようになった。セントラルパークは、北はセントラル・パーク・ノース、東は五番街、西はセントラル・パーク・ウエスト、南はセントラル・パーク・サウス各通りに囲まれている。東側中央にはメトロポリタン美術館、西には道をはさんでアメリカ自然史博物館がある。この公園はフレデリック・ロー・オルムステッドとカルヴァート・ヴォークスによって設計された。

フレデリック・ロー・オルムステッド（1822年4月26日～1903年8月28日）は、アメリカの造園家で都市計画家。ランドスケープ・アーキテクトを最初に公式に名乗った人物。1822年、コネチカット州・ハートフォードで、富裕な商人一家の長男として生まれた。当初、イエール大学への進学を希望していた。しかし15歳の時、漆かぶれが原因で一時的に視力が衰え進学を断念する。牧師で農業技師

* 文教大学情報学部教授

でもあったフレデリック・バートンの下で3年間農地改良等の訓練を受けた。その後も貿易や航海士などさまざまな職業についているが1844年農業に進む決心、イエール大学で当時の科学的農法を学んだ後、ニューヨーク市郊外にあたるステテン島で1854年まで農場の経営にあっていた。35歳のとき、偶然出会った友人にセントラルパークの監督官の仕事をお勧めされたのが転機となる。こうして1858年からは造園関係の仕事を始め、イギリスの造園設計手法である風景式庭園をアメリカの公園設計手法に位置づけさせ、その公園内はまるで自然の中にいるよう



写真2 セントラルパークの全景（検索画像）

に錯覚する風景だが、高度に計算された人工的なものである。公園内にはいくつかの湖、2つのアイススケートリンク、各種スポーツ用の芝生エリア、自然保護区、そしてそれらを結ぶ遊歩道などがある。道路は景観を崩さないために人工的に窪地に作られている。これはダイナマイトで岩盤を破壊して作ったものである。公園内は自動車の通行が禁止されており、週末は公園を囲む9.7kmの道はジョギングをする人々、サイクリングやインラインスケートを楽しむ人々などで賑わう。また、ここはニューヨーク・シティマラソンのゴール地点にもなっている。渡り鳥たちのオアシスにもなっており、バードウォッチングも盛んに行われている。夏には園内のデラコート劇場で有名な映画スターによるステージが行われる。マンハッタン島の都会的景色と喧噪の中のオアシスとしての働きを果たしており、公園に面してその景色が視野に入るアパートメント・コンドミニウムは、近隣の中でも高く評価される物件となる。セントラルパークはアメリカで景観を考慮して設計された最初の公園である。園内には多数の彫刻がある。設計者のオムステッドは彫刻の乱立を嫌ったが、結果は良い方向に向かっている。最初に建てられた彫刻は作家の像や詩にちなむもので、文学歩道と呼ばれるようになった。彫刻で最も古いものとしては、エジプトのクレオパトラの針と呼ばれる長さ21m、重さ200tのオベリスクで、エジプト総督から贈呈された。実際は古代エジプト王トトメス3世が建てた彫刻で、クレオパトラの時代より古いものである。その他、大きなキノコに座り、他の登場人物たちと戯れる不思議の国のアリスの像などもある。

私はこのセントラルパークを一周したことがある。1985年夏、ANA北海道スキーツアー・キャンペーン広告のキャラクターとして使用するスヌーピーの使い方の打ち合わせのため、スヌーピーの代理店（日本でいえばサンリオ）に訪問した。翌日早朝、セントラルパークの外周距離9kmを一周しようと思い立ち、早足3時間程かけ一周した結果、すこし足を痛めた。想像以上の広大な公園だった。

2. 彫刻家イサム・ノグチ

モエレ沼公園をデザインした彫刻家イサム・ノグチは、1904年、アメリカ合衆国ロサンゼルス生まれの日系アメリカ人。彫刻家、画家、インテリアデザイナー、造園家・作庭家、舞台芸術家など幅広いジャンルで簡潔な造形を追及した。父は愛知県生まれの日本の詩人で慶應義塾大学教授の野口米次郎、母はアメリカの作家で教師のレオニー・ギルモア。

2010年11月20日公開された日米合作の角川映画「レオニー」はイサム・ノグチの母、レオニー・ギルモアの伝記映画である。ドウス昌代による「イサム・ノグチ 宿命の越境者」⁴⁾に感銘を受けた監

督松井久子が7年の歳月をかけて完成させた作品。⁵⁾ 1907年3歳のとき、母レオニーと日本へ来日、父・米次郎と東京で同居。1911年、神奈川県茅ヶ崎に転居。地元の小学校へ転入。1915年秋の1学期間休学して、母親の個人教授を受ける。茅ヶ崎の指物師について見習い修行。1918年母の意思で、単身米国へ送られ、インディアナ州ローリング・プレーリーのインターラーケン校に入学した。1927年、グッゲンハイム奨学金を獲得し、パリに留学。半年間、オーギュスト・ロダンの弟子である彫刻家コンスタンティン・ブランクーシに師事しアシスタントをつとめ、夜間の美術学校に通う。1964年、アメリカの企業・IBM本部に2つの庭園を設計する。1968年、アメリカ・ホイットニー美術館において大々的な回顧展が開催される。1969年、シアトル美術館に彫刻作品「黒い太陽」を設置。東京国立近代美術館のために「門」を設置。この年、ユネスコ庭園への作品素材に香川県庵治町・牟礼町（現・高松市）で産出される花崗岩庵治石を使ったことをきっかけに牟礼町にアトリエを構え、「あかり」シリーズを発表。ここを日本での制作本拠とし、アメリカでの本拠・ニューヨークとの往來をしながら作品制作を行う。1970年、日本万国博覧会の依頼で噴水作品を設計。1985年、翌年開催のヴェネツィア・ビエンナーレ（第42回）のアメリカ代表に選出される。1988年、勲三等瑞宝章を受勲する。札幌市のモエレ沼公園の計画に取り組む。12月30日、心不全によりニューヨーク大学病院で死去（84歳）。母レオニーの命日に1日だけ先んじ、その天命をまっとうした。1999年、香川県高松市牟礼町にイサム・ノグチ庭園美術館開館。

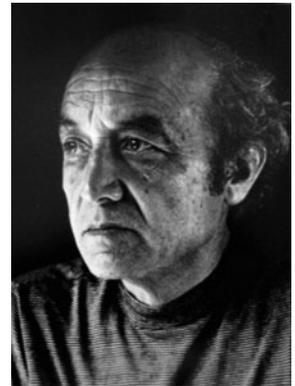


写真3 イサム・ノグチ

3. モエレ沼公園構想

モエレ沼公園の整備は、札幌市の市街地の周囲を緑化しようという「緑化環状グリーンベルト構想」で始まった。1979年からゴミの搬入・埋め立てが始まり、公園の基盤整備は1982年から始まった。ゴミの埋め立てが終了したのは1990年である。埋め立てられた廃棄物の量は約270万トンに達する。造成工事費は270億円。2005年7月1日に完成オープンした。

公園の基本設計はイサム・ノグチ、監修はイサム・ノグチ財団のショージ・サダオ（貞尾昭二）、設計統括はアーキテクト・ファイブによる。設計監理統括者は川村純一。ノグチは若い頃から彫刻作品を作る一方で、大地を彫刻する公園計画などに興味を持ち、1930年代以来「プレイマウンテン」など様々な模型を製作し、コンペにも参加していたがなかなか果たせなかった。しかし札幌市が市街地の周囲を公園や緑地など8つの緑地帯で包み込もうとする計画を建て、市長への推薦からイサム・ノグチへオファーが舞い込んだ。1988年3月に札幌を初めて訪れたイサム・ノグチは、ゴミ埋立地だったモエレ沼のために公園を設計した。この計画の中には、彼の数十年來の構想であったプレイマウンテンも含まれていた。彼はそれが形になるのを見ずに同年末に死去したが、その後も基本設計に基づき工事は進められた。

写真4 モエレ沼公園の最終模型を前に検討する
イサム・ノグチ

1988当時の札幌の板垣市長が、イサム・ノグチを招いて公園のデザインを依頼し、その候補地を3つ挙げた。彼は3つの敷地を訪れた後、1988年3月に、454エーカーの埋立地を選んだ。札幌市も、最終的にはここを公園にしようとして計画していた。ここは、モエレ沼として知られ「モエレ」はアイヌ語で「静かな水面」を意味する。この広大な敷地についての構想は、彫刻のコンセプトを拡大しようとするノグチの野心をさらに強めることになった。ドーレ・アシュトン、イサム・ノグチが「私は極限に近づいている」と記したことを思い起こし、「彫刻を大きな計画の一部にする」という彼の野心を説明している。彼は、この土地に形を与え、歩きまわって楽しめるモニュメンタルな彫刻をつくらうとした。しかし、イサム・ノグチは公園のマスタープランと3000分の1の模型を完成させることしかできなかった。プラン完成の1ヶ月後の彼の予期せぬ死によって、施主はプロジェクトの続行を危ぶんだ。しかし、すでにこのプロジェクトの契約をしていたアーキテクト・ファィブの川村純一の監修によってマスタープランを実行した。10年がかりで建設されたイサム・ノグチのマスタープランに基づくモエレ沼公園は、1998年7月に一部が開園した。2002年度グッドデザイン賞大賞受賞。公園が全体として完成したのは2005年である。イサム・ノグチは、自然と人工的な自然との間の対話に生涯にわたって関心を持ち続けており、純粋な幾何学形態（円と正方形）のシステムと素材の色彩を使って敷地を構成した。デザインされたものは、ガラスのピラミッド、プレイマウンド、テトラマウンド、アクアプラザ・カナル、モエレビーチ、サクラの森、海の噴水、モエレ山、野球場、野外劇場、ガラスのピラミッドだった。現在は、陸上競技場、テニスコートが増設された。二つの山があるが、ひとつは高さ164フィートのモエレ山。もう一つは1933年に構想されていたプレイマウンテンを高さ90フィートに再現したもので、その三角形の一面には99段の石段が配置されている。1930年および40年代のノグチの遊具の色彩と造形が意外性や教育的な構成エレメントとしてモエレ沼公園に取り入れられた。

イサム・ノグチは、彫刻は個人に所有されるよりも、公共に楽しまれることに意義があるとの信念を持ち社会的な催物が行われる場所を考えた。ユネスコ本部の庭園やピリー・ローズ彫刻庭園と同じように来客者は歩き登りモエレ沼を探検する。モエレ沼公園は、イサム・ノグチの日本文化への深い理解を公共芸術の社会的価値において反映している。1990年代の日本において公共芸術に対する理解が広がりつつあったが、これらの彫刻はいまだに装飾的なものとしがみなされていなかった。イサム・ノグチが見抜いていたようにモエレ沼公園は、ニューヨークのセントラルパーク同様、人の集まる場所となるだろう。フレデリック・ロー・オルムステッドは都市環境の中に公共のオープンスペースを持ち込むというアイデアの先駆者であった。また、イサム・ノグチもオルムステッドのように彫刻というものを切り開いた先駆者であった。オルムステッドのセントラルパークでは牧歌的な自然を表現し曲がりくねった小径を田園風につくり自然風景的に見せている。ノグチはこれとは対照的に、鋭角に直交する園路を用い植物も彫刻的エレメントとしてコントロールし、モエレ沼公園全体をひとつの彫刻としてデザインしていた。イサム・ノグチの広範な仕事と、ジョウジ・サダオの長年にわたるコラボレーションによって、イサム・ノグチが持っていた彫刻の役割という信念が美しく表現された公園となった。この公園は、イサム・ノグチの作品の永久回顧展となり、イサム・ノグチが生きていたらどのような新しいひねりが加えられていたかという興味を起こさせる。モエレ沼公園はイサム・ノグチの60年間の仕事の到達点だろう。³⁾

4. 海の噴水 (Sea Fountain)

取材した中で主な作品について記述する。海の噴水は、公園の中心部に、直径200mの大きな森をつくり、その中心の空間に直径48mの大きな噴水が設けられている。森はすべてカラマツで新緑から紅葉まで北海道らしい季節感をかもしだす。噴水は、音楽に合わせ、静かな海から荒れ狂う嵐の海へと変化していく海の姿をイメージし¹⁾ 最大噴上高は25m、ダイナミックな水の動勢は生命の誕生、宇宙を表現、公園全体に息吹を与える「水の彫刻」と呼ぶにふさわしい形態である。²⁾ また、夜のライトアップが素晴らしく、昼と夜の表情が違うのを楽しめる。ぜひ、一度「海の噴水」で動画検索していただきたい。



写真5 海の噴水 (昼)



写真6 海の噴水 (夜)

5. テトラマウンド (Tetra Mound)

直径2mのステンレス柱の組み合わせによる三角錐と、芝生の小丘の構成。丘の上に登り、テトラを真近くで感じられる。シンプルでダイナミックな参加型造形。テトラマウンドは直径2mのステンレス柱の組み合わせによる三角錐と芝生の小丘で構成された、シンプルでダイナミックな造形です。イサム・ノグチがデトロイトで制作した噴水作品と同様に仕上げられたステンレスの表面は、光の加減によって様々な表情を見せます。また、隣接した広場は、コンサートやイベントなどに利用される。²⁾ ぜひ、丘の上に登り、近くに見えるステンレス柱の繊細なマチエールと、ダイナミックな造形を感じていただきたい。



写真7 テトラマウンドと筆者

6. ガラスのピラミッド (HIDAMARI)

モエレ沼公園のシンボル、建物全体が緊張感あふれる彫刻作品。建築内に、ギャラリー、文化スペース、レストラン、ショップ、管理事務所がある。「HIDAMARI」という英文訳から感じるように、アトリウムは太陽光が射し、公園内を見渡せ、自然と一体化した大きな休息場所となっている。²⁾ ルーブル美術館にガラスのピラミッドがあるが、それに匹敵する。ガラスの彫刻の中を昇降するエレベーターに乗り公園の全景を見ていただきたい。

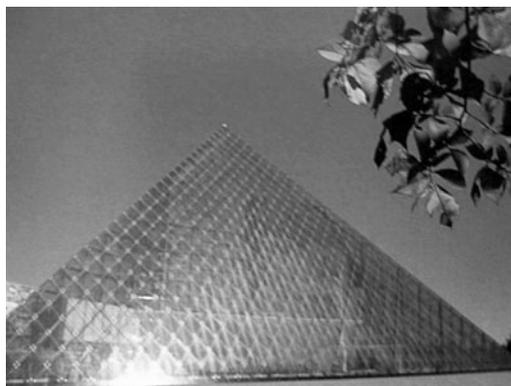


写真8 ガラスのピラミッド

7. モエレ山 (Mt.Moere)

標高62mのモエレ山は、公園全体に対して主要なフォルムを形成するとともに、札幌市東部唯一の山として国土地理院の地図にも登録され、地域のランドマークの機能を果たしている。3方向5ルートから山頂に上がることができ、10分ぐらいで到達します。頂上は公園全体だけでなく、札幌市全体を360度の見渡す展望台となっている。夏はさわやかな風を感じながら歩みを進め、冬にはスキーやソリ遊びができ冬季の公園利用の拠点となります。¹⁾²⁾



写真9 モエレ山と筆者

8. おわりに

東京からモエレ沼公園へ行く交通手段は、羽田から新千歳空港（95分）、空港からJR快速エアポートで札幌（35分、約1040円）へ、札幌から中央バス（35分）で、或いはタクシー（35分、約2800円）でモエレ沼公園着でした。入口にあるバス停「モエレ沼公園」にレンタサイクルがあるので便利です（2時間200円）。私は天候の悪い5月の連休に訪れたが、お勧めは7月～8月の夏休みに訪れてみたい公園です。ぜひ、イサム・ノグチのコンセプト「地球を彫刻する」を体感ください。

参考文献

- 1) 鈴木輝志編「イサム・ノグチと札幌モエレ沼公園」札幌テレビ放送株式会社、財団法人札幌市公園緑化協会協力、2007
- 2) 財団法人札幌市公園緑化協会編「モエレ沼公園 基本設計：イサム・ノグチ」モエレ沼公園管理事務所、2012
- 3) アナ・マリア・トレス「イサム・ノグチ 空間の研究」マルモ出版、2007
- 4) ドウス昌代「イサム・ノグチ 宿命の越境者（上・下）」講談社、2000
- 5) 松井久子監督「レオニー」角川映画、2010